

## 『犯罪について』

多久市立東原庫舎中央校 7年 <sup>かわぐち</sup>川口 <sup>くるみ</sup>胡桃

私はこれまでニュースなどで色々な犯罪や非行を見てきました。そこで私はなぜ、犯罪や非行が起き、減らないのかについて考え、調べました。私は「割れ窓理論」というものを見つけました。それは、小さな悪いこと、不安、心配なことを片付けずに放っておくと、治安が悪化していくことを「割れ窓理論」と言います。これを知って私は、小さなことの積み重なりが、人々の大きな不安につながるということが分かりました。「割れ窓理論」による治安の悪化を防ぐために有効なのが、そうじやごみ拾いといった小さな行動です。犯罪の原因になるのは、私たちの「小さな不安、不快感、心配」です。町のなかにゴミがたくさんおちていたら、悪いことをする人は、「これくらいならやっても大丈夫なんだな」と感じて、私たちに不安にさせる行動をもっとエスカレートしていきます。ですから私は、どんなに小さなことでも、ほったらかしにしないで、色々なことに注意しながらすごしていきたいです。

そして次は、犯罪が減らない原因です。年々少しずつ犯罪は減少していますが、大幅に減ってはいません。なぜ犯罪は減らないのでしょうか。私は、一度犯罪をおかした人が、また犯罪をくり返してしまうのが原因だと考えます。ネットの情報によると、少し古いデータですが、少年院を出た人の5年以内の再入所率は約二十三パーセントだそうです。つまり一度犯罪を犯した少年少女の4～5人に一人が早い時期にもう一度犯罪を犯していると

ということです。なぜ犯罪をくりかえす人が多いのか、それは、友達がいらない、虐待された経験がある、自己破壊的な感情（自分なんてどうでもいいと感じて薬物を使用したり、犯罪を犯かしたりしてしまう）少年院を出たというだけ就職できない。家を借りるのを断られる、少年院を出ると急に孤立する。ことなどが原因となっています。私は、犯罪を行った人に、「犯罪を犯かしてはダメだよ。」と言うのではなく、犯罪を行った人の気持ちによりそって、あなたは一人じゃないよ、とまずは伝えてあげたいと考えます。そして、少しでもその人の心の支えになってあげたいと思います。

犯罪を私一人の力でなくすことは、不可能に近いですが、みんなで日ごろから小さなこと（ごみ拾いなど）を続けていけば、きっと少しは犯罪が減ると思います。そして、今、私たちが、おいしいごはんを食べて、あたたかいお風呂に入って、友達と遊べることに感謝しましょう。家庭内環境や、友達がいらないことなどが原因で犯罪や非行を行ってしまう人々がいることを忘れないでください。

私はこの作文を通して、色々な情報を見ました。今までの私は、悪いことをしている人を見かけると、すぐに注意していましたが、これからは、悪いことをしている人を見かけても、注意をしたあとに、その人たちが、これから悪いことをしないように、できないようにするために、その場で解決策まで考えられるようになりたいと思います。

最後に、日常生活での、私たちにできることと、日常でよくおきる犯罪か

ら身を守るためにどんなことができるか考えたいと思います。まず、私は、ごみ拾いなどをあたりまえにして、みんなで日ごろからごみを拾うように、呼びかけていきたいと思いました。そして、犯罪から身を守るために、3つのことを常に心に止めておきたいと思います。一つ目は、不用意に他人にけい帯電話番号やメールアドレスを教えない。2つ目は、防犯ブザーなどの防犯器具を身に付ける、3つ目は、見知らぬ来訪者には、対応を考えるか、居留守を使う。この3つを常に心に止めて、自分が犯罪にまきこまれたり、まきこまれそうになっても、自分の身を守るための工夫をしていきたいと思いました。その他にも、なるべく一人で帰らないなどのことをしていきたいと思いました。